

2011年度 新宿区多文化共生連絡会 第1回全体会 参加者一覧

2011年5月30日(月)

新宿区役所第一分庁舎6階 研修室A

No	所 属	氏 名
1	大久保いぶき町会	太田 昭二
2	東京日本語ボランティアネットワーク	梶村 勝利
3	明治大学 国際日本学部 教授	山脇 啓造
4	NPO法人みんなのおうち	小林 普子
5	共住懇	山本 重幸
6	プラザ相談員(タイ語)	渡辺ナタニー
7	ミッターファンデーション	イ・イーミン
8	新宿虹の会	尾形 富美子
9	NPO 法人多文化共生センター東京	王 慧瑾
10	NPO法人豊島多文化共生ネットワーク	廣瀬 勲
11	東京中国人センター・プラザ相談員(中国語)	唐 佳寧
12	外国人総合相談支援センター	山本 ゆみ
13	株式会社ブリックス	山村 哲平
14	在日本韓国人連合会	李 孝烈
15	国際交流基金	丁 寧
16	西早稲田文化町会	小林 昭文
17	新宿区社会福祉協議会大久保ボランティア・地域活動サポートコーナー	風見 亜津子
18	ダイバーシティ研究所	前川 典子
19	ネパール新聞	マルラ・ティラク
20	ネパール新聞	シュラスタ・ブパール・マン
21	コリアNGOセンター	金 朋央
22	立教大学大学院	姜ボ競
23	(財)新宿未来創造財団 主幹	鯨井 庸司
24	(財)新宿未来創造財団	高橋 直郁
25	新宿区 自治創造研究所	伊藤 和歌子
26	新宿区 大久保特別出張所長	黒田 幸子
27	新宿区 多文化共生担当副参事	月橋 達夫
28	新宿区 文化観光国際課係長	磯野 義裕
29	新宿区 しんじゅく多文化共生プラザ所長	宮端 啓介
30	新宿区 文化観光国際課主査	小滝 靖
31	新宿区 文化観光国際課主事	青江 和
32	新宿区 文化観光国際課	臼田 謙司

# 新宿区多文化共生連絡会 会議要旨

日時 : 平成23年5月30日(月) 18時から20時  
会場 : 新宿区役所第一分庁舎6階 研修室A  
参加者 : 32名(詳細は別表)

## ～区挨拶～

区: みなさん、こんばんは。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。昨年度は、新宿ネットワーク連絡会を新宿連絡会としてリニューアルし、皆さんに本当にお世話になりました。今年度以降もまた活発な活動を続けていきたいと思っております。では最初に新宿区より一言ご挨拶させていただきます。

区: みなさん、こんばんは。本日は、夜分、新宿区役所までお越しいただきましてありがとうございます。昨年は6月17日に第1回の新宿区多文化共生連絡会を開催させていただきました。今年は、昨年より早い段階からスタートしたいという思いもありまして、5月のこの日を選ばせていただきました。今年度も、いろいろと皆さんのお力をお借りして考えていかなければいけないこと、決めなければいけないことがあります。今年度は、新たにメンバーになっていただいた方もいらっしゃいますので、皆さんと力を合わせて新宿区が多文化共生を盛り上げていければと思いますのでよろしく願います。

## ～参加者自己紹介～

【参加者の自己紹介・活動紹介】

## ～2011年度の体制づくりについて～

区: 会議次第3の「2011年度の体制づくりについて」をご協議いただければと思います。昨年度、新宿区連絡会をいう組織を新たに立ち上げまして、その中で会則も定めております。その第6条により会長1名、副会長2名を置くことになっています。その任期は、第8条により選出された日より1年とし、再任を妨げないとなっています。昨年6月17日に第1回の全体会で、太田会長、梶村副会長、李承珉副会長を選任しまして、昨年度の連絡会を運営していただきました。今年度も、会長、副会長を選任したいと思います。勿論、再任を妨げないとしていますので、そのまま継続することもできます。

この役員を選任について皆様にお諮り致します。ご意見のある方はいらっしゃいますか。

A：1年間で終わりというのもないと思いますので、ご本人にご了解いただけるのなら、2年間くらいは継続をお願いしてはどうでしょうか。李承珉副会長は、本日いらっしゃっていないのですが、多分、大丈夫かと思います。

区：太田会長、今年度も会長職をお願いしてもよろしいでしょうか。

B：勉強不足のままこの1年間、会長職を務めてまいりましたが、皆様のご推薦ということでありましたら、再度一生懸命務めさせていただきます。

区：ありがとうございます。是非よろしく願いいたします。

～ 会員から大きな拍手あり ～

区：梶村副会長にも引き続きお願いしてもよろしいでしょうか。

C：昨年度は、体調を崩しまして皆様にはご迷惑をおかけしました。未だ完全に復調という状況ではありませんが、皆様のお役に立てればと思います。よろしく願いいたします。

区：是非よろしく願いいたします。

～ 会員から大きな拍手あり ～

区：もうお一人の李承珉副会長にも引き続きお願いするようにいたします。それでは、今年度も太田会長、梶村副会長、李承珉副会長に役員をお願いいたしまして、この新宿区多文化共生連絡会を活発に運営していければと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。太田会長、梶村副会長には、席の移動をお願いいたします。

～ 正副会長、席移動 ～

区：それでは、太田会長、梶村副会長、改めてご挨拶をお願いいたします。

B：会長の再任を受けられる器ではないのですが、難しい多文化共生という問題について1年間取り組めたのも、皆様のご協力があったからこそだと思います。改めてお礼申し上げます。月末の月曜日ということで大変お忙しいところお集りいただきましてありがとうございます。東北の大震災、福島原発事故など先が見えない大変不安な状況ではあ

りますが、新宿の多文化共生につきましては、皆様と一致団結して推進していきたいと思  
います。どうぞ皆様ご協力をお願いいたします。

C：副会長ということで太田会長をサポートしながら務めていきたいと思  
います。東京は外国人が多いのですが、特に新宿区は人口の10%以上が外国人であり、大久保地区は更  
に比率が高いです。大久保地区には、日本人住民だけでなく、様々なところからの観光  
客も多くなって、新宿区だけでなく、他のところの方も新宿区と係わりを持つようにな  
ってきています。そのような状況下において、前年度に引き続きまして取り組む課題  
もありますが、また新たな多文化共生推進会議など重要なものもあります。この点につ  
いても、皆様のご協力無しには進めることができません。会長を支えながら務めていき  
たいと思しますので、よろしくをお願いいたします。

区：ここでファシリテーターの委嘱をお願いしたいのですが、その前に遅れていらっしや  
った方に自己紹介をお願い致します。

#### 【参加者の自己紹介・活動紹介】

区：ありがとうございます。それでは、会議次第の3に戻りまして、この新宿区多文化共  
生連絡会では、様々な事項を協議していくうえで、専門的知識、ノウハウをお持ちの方  
にファシリテーター役を委嘱することを会則の中で定めています。今年度もファシリテ  
ーターの委嘱を会長からお願いいたします。

B：ファシリテーターの委嘱につきましては会則にもございますので、私達にとって大変参  
考になるお話しもしていただける明治大学の山脇教授に、今年も引き続き進行も含めて  
お願いしたいと思  
います。先生、よろしくをお願いいたします。

～ ファシリテーター席移動 ～

B：それでは、ただ今から山脇先生の司会によりまして、今後も私達がどのように進んで行  
ったらよいかを勉強するために、どの方向を目指したらよいかということをご教示願  
いながら、進行をお願いしたいと思  
います。宜しくお願いします。

D：それでは、今年度もファシリテーター役を務めさせていただきたいと思  
います。1年間  
宜しくお願いいたします。

昨年と今年とでの大きな違いは、やはり大震災があったということだと思  
います。様々な問題が起きていますが、外国人関連のものとしては、情報発信のあり方が大きく問  
われています。特に原発事故に関する政府の情報発信が、在日外国人に対してだけでなく、

外国に対しても、そのあり方が問われています。そうした中で、政府として、行政として、外国語で、外国人や外国へ正確な情報発信していくということは、関係者の待った無しの課題になっていると思います。外国人、外国への情報発信というのは、外国人や外国のためだけではなく、日本のためでもあることに多くの方が気付いてきています。これだけ大きな災害の中で、日本に対するイメージが悪化し、様々な風評被害も出て、観光客も減っていますし、日本の製品に対する警戒心も世界中で高まっていますし、日本社会、日本経済への非常に大きな影響となっています。そのような中で、情報の発信の仕方が大きく問われています。これは、国だけの問題ではなくて、自治体にとっても同じことが言えると思います。その点で、今年度多文化共生のあり方を考える上で、今回の震災の教訓を活かした取組みに変えなければいけないと考えています。

今年度は、多文化共生に関する会議体の設置と外国にルーツを持つ子ども達の実態調査など、大きな、具体的な取組みが予定されています。他の自治体では、そういう取組みが既に実施されていて、古いところでは関西ではそのような会議体を20年以上も前に設置しています。また、外国の子ども達の調査も2000年代に東海地方で取りまとめ、文部科学省もここ数年実施しています。なぜか外国人が一番多い東京だけは取組みが遅れてきました。しかし、ようやく新宿区がそこに踏み込むというのは、新宿区だけでなく東京全体にとっても大きな意義があることだと思います。おそらく、新宿区がそのような取組みを始めれば、間違いなく他の特別区へも影響を与えるでしょうし、東京全体にも影響を与えるでしょう。全国の自治体にとっても大きな意義があることだと思います。そのような意味でこの連絡会が議論をすることは励みになると思います。

## ～2011年度の連絡会の運営について～

### 【資料1に沿って事務局が説明】

区：ありがとうございました。それでは、ただ今の説明にご質問、ご意見のある方は、挙手をお願いします。

E：新たな取組みの新宿多文化共生推進会議は、新宿区多文化共生連絡会とは機能はまったく異なるのでしょうか。

区：次の議題でもご説明しますが、基本的には新宿区多文化共生連絡会の機能は残しつつ、別の役割を持つ会議体を設置したいと私達は考えています。新宿区多文化共生連絡会が発展的に解散して多文化共生推進会議になるのではなく、役割をそれぞれ別々に持たせたいと思います。あくまでも事務局の考えですので、皆様のお考えもお聞かせいただきたいと思います。

A：新しく参加された会員の方もいますので確認しますが、現在の3つの分科会とは別に、新たな分科会が必要という意見が出た場合は、どのような対応になりますか。

区：新たな分科会については、皆様認識している課題も様々でしょうし、地域での取組みも違うと思いますので、昨年立ち上げた3つの分科会に限定することなく、ご意見がありましたら尊重したいと事務局は考えています。

D：それは、どの段階で議論しますか。

区：次回の全体会ではどうでしょう。今日でもよいのですが、新宿多文化共生推進会議の設置について、分科会で議論していただくことも考えていましたので、あまり分科会が多くなってしまうのも全体運営上問題がないか検討しておく必要もあると思います。この点も皆様のご意見を頂きたいと思います。

D：本日、予定されていた議題を終えた後に時間があれば、今日、議論することにしましょうか。皆様どうでしょうか。それでは、そのようにします。

## ～（仮称）新宿多文化共生推進会議設置の検討について～

### 【資料2に沿って事務局が説明】

D：ありがとうございます。先ほど、東京都がこの件について遅れている旨を申しあげましたが、例外を2つ思い出しました。一つは、1997年に設置され2001年に廃止された外国人都民会議です。もう一つは、1999年に三鷹市が設置した外国人円卓会議です。

それでは、ただ今の説明、提案について、特に、新宿区の特徴を活かした会議体を作るのは難しいことだとは思いますが、それを含めて、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

F：私は、今日初めて出席しました。皆様のご意見を伺っていると、議論が非常にアカデミックな感じがします。それより、外国人が日常的に困っていることについて、どこに相談に行ったらよいかを案内することなどの方が重要です。新宿生活スタートブックのことは、今日初めて知りました。私の商店街には、外国人の飲食店がたくさんありますので、この冊子を持って行ったら非常に喜ばれると思います。区役所に置いておけば

よいということではないと思います。それは上から目線です。現地で何に困っているかを知るべきです。上から目線での理論ばかりでは駄目で、現場から必要なこと考えた方が外国人に受け入れられやすいと思います。

D：ありがとうございます。他にございませんでしょうか。冊子の存在さえ知らなかったというご意見がありました。区の方の説明等がありますでしょうか。

区：ただ今のご意見は非常に貴重なご意見だと思います。行政としても決してアカデミックに語りたいとの気持ちはありません。むしろ、外国人の方が新宿区で生活するためにどうすればよいのかというところで、例えば、新宿生活スタートブックとか、10種類に分けた生活情報誌とかを発行しているのですが、そういったもので、できるだけ情報を伝えたいと思っています。この会議も外国人の方が地域でどのような悩みを持っているかを、どのような区政を望んでいるかを直接伺う機会です。私共も、そういった気持ちを常に忘れないで取り組んでいきたいと思っています。

D：新宿生活スタートブックの今の配置場所はどのようになっていますでしょうか。

区：外国人登録をする際に、皆さんにお渡ししているのが、基本的な方法になっています。区内の様々なところに配置し、読んでいただくという展開については、私達の努力が足りないところです。改訂版については、発行部数を増やして、不動産屋など外国人が多く来る場所をリサーチするなどして積極的に配置したいと思っています。

D：ありがとうございます。他にありませんでしょうか。

G：新宿多文化共生推進会議（以下「推進会議」）について、ニーズ調査は行われたのでしょうか。当事者から区政について参加する場を設けて欲しいという声があったのでしょうか。

区：ニーズ調査は行っていません。平成19年度に新宿区が多文化共生実態調査を行いました。そこでは外国人の声を吸い上げることについての意見は具体的にはありませんでした。ただ、前身のネットワーク連絡会、この新宿区多文化共生連絡会（以下「連絡会」）などの議論の中では、ご意見やご要望は出ていたと思います。

G：その中で新宿生活スタートブックがどこにあるか分からないという要望が、どこで吸い上げられるのですか。生活に関する細かな要望については、どこで吸い上げ、対応されているのですか。

区：新宿生活スタートブックについては、昨年、山脇先生のゼミ生に日本語学校や外国人相談窓口などで具体的な声を吸い上げていただき、報告していただきました。そのような声を聞きながら、改善方法を考えていきます。

G：現在、プラザのアンケートについて100件の回答を集める目標を掲げていますが、そこで集められた要望をどのように位置づけ、取り上げるのでしょうか。

区：要望を吸い上げた場合には、この連絡会等、様々な方が集まる会議で集約し、区の政策に反映させることとなります。

G：一方で新しい会議体を作るということですね。

D：新しい会議体とこの連絡会の役割分担がどうなっているかということですね。

H：誰のための会議体ですか。スタートブックにしても、ホームページにしても言語は4つだけしかありません。その他の国の人を支援するつもりはないのですか。ずっと何年もこの会に参加していますが変わっていません。このままなら私達も考えがあります。支援する幅を広げるための別の対応も考えています。アンケートも4つの言語でしか行っていないじゃないですか。

区：言語の問題は、以前からご意見を頂いています。新宿区が提供する言語の基準として「外国人情報提供ガイドライン」を昨年策定し、新宿区が情報提供する際に用いる言語は、英語、中国語、ハンゲル及びルビ付きの日本語の4つにすると定められました。しかし、それに縛られ限定するだけで足りるとの認識は、私達は持っていません。例えば、タイ語、ミャンマー語、フランス語、スペイン語等、様々な言語がありますから、場面、場面で対応できる柔軟な対応をしていきたいと思っています。ただ、それがなかなか形になっていないのでいろいろとご意見をいただくことになっていると思っています。

H：千葉県市原市などは、新宿区より財政規模が小さいのに多くの様々な言語で困っている人達への対応を行っています。

I：議論を聞いていると、根本的な問題と個別具体的な問題が混ざっている印象を受けます。最初、この連絡会と新たな推進会議がどのように異なるのかとのご質問がありましたが、その答えは、お配りした資料2の4（2）に記載されています。推進会議は「外国人が区政に参画し意見や提言を述べる場」とし、一方この連絡会は「引き続き地域の課題を話し合う場」ということで、かなり重なり合う部分もあるとは思いますが、少なくとも推進会議については、区政において具体的な施策になるような提言を行っていく趣旨だ



と思います。従って、タイ語に対応していないとか、情報発信においては、スタートブックがあったり、10種類の生活情報紙があったりとか、様々行われてきていますが、それが実態として伴っていないということを、推進会議のテーマとして取り上げていただいて具体的な施策として区政に上げていくというところが、具体的な推進会議のイメージだと思います。そうすると連絡会のところで話し合っても、話し合いにとどまっていたところが、推進会議を使うと更に一步上に上げやすいということだと思います。テーマも多岐にわたると思います。毎年、推進会議を使いながら、より現実的な、また緊急性の高いテーマを絞っていただいて上げていくという使い方が出来ると思います。

D：情報提供の多言語化については、後で「新宿生活スタートブックの改訂」の議題のところで議論できると思います。この時間は、連絡会の運営について議論したいと思います。

H：私が言いたかったのは、ここでの言語を増やして会話をすれば、ここに参加するメンバーも増えるということです。外国人を支援したいのなら、連絡会に外国人をもっと参加させるべきです。どうすれば外国人が参加できるのかについても、いろいろ考えられます。

D：ありがとうございました。他にご意見はありますか。新しい会議体と今の連絡会との違いについて疑問が出たのですが、一つは資料2の4（2）に示されているのではないかとのご意見がありました。ただ、資料の（1）の左側が全て空白になっていますので、イメージしにくいとは思われます。事務局としては、空白の部分については、ただき台は無く、この連絡会での協議の中で埋めていくという考えでしょうか。

区：事務局なりの考えはあるのですが、それを最初に示してしまうと議論がそれに影響を受けてしまうと考えましたので、悩んだのですが、敢えて空欄にさせていただきました。おっしゃるとおり、比較するものが並んでいないと違いを認識することが難しいかとは思いますが、ただ、皆様で制度設計を協議していく中で決めていっていただきたいということでそのような形になっています。

J：たぶん推進会議とこの連絡会の連携やコミュニケーションがとても大切になってくると思います。連絡会はタウンミーティングの様に様々な人が自由に参加できて自由に述べる場なのですが、推進会議は少人数で政策や区政について話し合う場なのだと思います。そうすると二度手間や無駄が発生しないように、推進会議のメンバーも連絡会に参加した方がよいと思います。

D：ありがとうございました。推進会議と連絡会が存在しても、その間のコミュニケーション、連携が大事だというご意見でした。他にいかがでしょうか。

E：説明を聞いて連絡会と推進会議の違いがなんとなく分かるようになってきました。私は外国人なので外国人のことをよく知っていますので、仕事上の経験や実例などを踏まえて（要望を）区政に反映してもらおうというのが（連絡会参加の）目的の一つです。会合してそれで終わりではいけません。そういうことを考えると推進会議ができると連絡会は必要なくなるのではないかと私は思います。連絡会で話し合ったものを、再度、推進会議で話し合うのは時間的に無駄です。個人的な考えではありますが、それに意味があるのかと思います。会議体が2つも必要なのかなと思います。

D：ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

K：専門外なので素人の意見ではありますが、たぶん具体的なものが次回以降に出て来て議論が深まるのだと思いますが、例えば大阪や川崎では、この種の会議体が90年代半ばに作られています。これは、外国籍の人の地方参政権の問題と関連があったのではないのでしょうか。違っていたら申し訳ありません。ただ、この会議体によって、外国籍の人が区政に関心を持つようになるのと同時に、（外国人に）公民権が無い状況の中で、この会議体がこのような役割を果たすのですよと、特に新宿区では、10人に1人以上が外国籍の人という状況ですから、そのフォローアップとして、参政権が通れば話は変わりますが、外国籍の人にも区政に参加し、発言する権利があるのだと、住民としての役割を果たして欲しいというメッセージなり、目的が出せると良いと思います。（会議体を）作る時には、「外国籍の人も区政に」というのではなく、当然本来政治に関心を持っています。ただ、それを発揮する機会が無いのです。その具体化として、この推進会議があるのだとすると、とても魅力的なものになるのではないかと思います。この連絡会の魅力は、区民でなくても参加できるという裾野の広さです。恐らく、そのために2つの会議体をご提案されているのかなと思います。それぞれの目的を明示されることを希望します。

D：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

F：イメージとしては、連絡会は、現場での困り事を吸い上げて検討しますが解決策は出せないのですよね。推進会議には権威を持たせて、区に対して連絡会よりもっと影響力や権限を持たせて、推進会議に議題を持って行けば少し前進するという形にした方が分かりやすいと思います。

D：川崎市の会議体は、市長へ直接、提言を出して一定の影響力を持っているのですが、新宿区の場合は、区政に対しての拘束力、影響力はどの程度を想定しているのでしょうか。

区：連絡会は、話し合っただけで終わりという会議ではないのですが、区政に対する拘束力については、今後立ち上げ予定の推進会議の方がより拘束力があるものにすべきではないかと事務局では考えています。例えば、メンバーにしても、推進会議の方では、公募区民の方など、ある程度選ばれた方であったり、あるいは、様々な分野で活動されている方に入ってもらったりなどのある程度の制約が出てくると思います。その様な推進会議が議論し、区長に提言したものは、実現しなければならないという拘束性は現在の連絡会よりは強くなると思います。ただ、連絡会で、多文化共生プラザのあり方などを話し合っただけなのですが、その中で多文化共生プラザが活性化するにはどうしたらよいか、アンケートをとって意見を吸い上げようとか、利用者懇談会の開催とか、地域の外国人のコミュニティを掘り起こすべきだとか、その様な様々な意見がありました。それは、貴重なご意見として活かしていくべきと考えています。ただ、拘束性の意味では、連絡会より推進会議の方により強さがあると考えます。

A：大阪市や川崎市の資料を見ると、（構成メンバーが）外国籍住民とか外国人市民とかになっていますが、多文化共生と言った時には、外国人だけの問題ではなく、日本人も参加していかにか共生していくかということがテーマになると思います。推進会議は、外国人が実際に意見表明ができない中での区政参画のためということになると、少し性格が違うものになると思うのですが、その辺の峻別というのはあるのでしょうか。

区：新宿区は、様々な会議体、審議会を持っていますが、決して外国人を排除しているということはありません。ただ、同じ土俵で一定数の外国人と日本人が話し合う場がないと思います。今後考えていく推進会議については、人数の比率は別の問題ですが、外国人と日本人が同じ土俵で政策について話し合っていく場になると思います。

A：例えば、比率的に言いますと、新宿だと様々な外国籍の人がいますが、様々な国の代表となると、人数がかなり多くなるということでしょうか。

区：そうですね。比率としては、新宿区ですから、できればできるだけ多くの国籍の方に参加していただきたいので、日本人よりは外国人の方が多いいメンバー構成になると思います。

A：外国人の区政参画という一面と多文化共生という意味と両方を持たせるということになるのでしょうか。

区：そうですね。ただ、それはあくまでも事務局の考えであって、そういう会議体にしななければいけないということではありません。

D: よろしいですか。大阪市の場合は、委員が20名ですが、そのうち約半数が日本人です。事務局の提案では、制度設計を連絡会の中で分科会を立ち上げて、その場で具体的な議論を行っていったらどうかということでした。分科会だけで決めるのではなくて、全体会に諮るようになると思いますが。その様な形で協議を進めていくことでよろしいでしょうか。あるいは、全体会で最初から議論をした方が良いと考える方はいらっしゃいますでしょうか。あるいは、議論自体を連絡会が行うことが相応しくないと考える方がいらっしゃいますでしょうか。この点、いかがでしょうか。

J: 連絡会の年間スケジュールを拝見すると、全体会だけで議論するとどうしても時間が足りなくなるので、分科会を作って議論し、全体会に報告してもらう方が良いと思います。

D: 他にいかがでしょうか。分科会を作って議論を進めていくということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、分科会で踏み込んだ議論をしていきたいと思えますけど、この場でメンバーを決めますか。

区: できましたら、一緒に考えていただける方がいらっしゃいましたらお願いします。

D: それでは、分科会に加わって推進会議のあり方の議論をしたいという方は手を挙げていただけますでしょうか。

E: 今私は、外国にルーツを持つ子どもの学習支援の分科会に参加していますが、その様な人も参加できるのですか。

D: 両方に参加することは可能です。

E: 参加したいのは山々ですが、既に分科会と全体会へ参加していますので、新たな分科会に参加する時間がある方がいらっしゃるのでしょうか。私は辞退します。分科会を増やすという話が先ほどありましたが、それは、これのことですか。

D: これもそうですが、他に必要な分科会があればそれも設置できます。

E: 新しく設置する分科会だけが推進会議について話し合うのですか。他の分科会でも推進会議について話し合うのですか。

D: 新しく設置する分科会だけが話し合うのです。ただし、時間の制約があるので、期間限定でこの数ヶ月だけで話し合うことになります。

区：提案ですが、昨年立ち上げた分科会で多文化共生プラザのあり方検討会がありますが、この分科会では、一定程度の方向性を示していただき、ある程度結論が出ていると思います。分科会が増えることによって、皆さんのご負担が増えるということでありましたら、プラザのあり方検討会において推進会議のあり方を議題の一つにして検討していただくという方法もあると思います。

E：私が心配しているのは、どうしても推進会議の方は意見が（政策に）反映される会議体になる気がします。また、その構成メンバーはどうなるのか、なりたい人が手を挙げて全て外国人になれば良いのか。

D：今、手を挙げて欲しいと言いましたのは、推進会議の委員になりたい人ではなく、推進会議の制度設計を考える分科会に参加していただける方のことです。今、手を挙げる方が少なかったのが、新たな提案として、プラザのあり方検討会で検討していただければどうかという意見が出ました。

G：未だ議論されていないのは、プラザの在り方ではなくて、この連絡会をどうしたいのかということです。新たに推進会議を作るとしたら、この連絡会の機能はどうするのかということです。この連絡会をどのように運営していくのかということです。もう一つのテーマとして出てくるので、それはそれで議論しないといけないと思います。役割分担もはっきりできていませんし、これからのスケジュールでどうしますか。

D：その議論は、推進会議の議論と別々に行うよりは、セットで議論した方が良いと思います。そうしないとお互いが違う考え方をされていて、それを後で調整する必要が出てきます。推進会議のあり方を検討するということは、同時に連絡会をどうするかを合わせて考えないといけないと思いますがどうでしょうか。

区：推進会議だけを一人歩きさせて結論を出し、では連絡会はどうしますかという問題を残すのは避けた方が良いと思います。推進会議をどうするかという議論の中では、必ず連絡会の役割も合わせて制度設計していくのが一番良い方向性だと思います。

D：改めて伺いますが、新たな分科会を立ち上げた方が良いのか、それともプラザのあり方検討会で議論をしていただくのか、これら二つの案が出ているのですが、どちらがよろしいでしょうか。プラザのあり方検討会のリーダーはいかがですか。

C：難しいでしょうね。メンバーの強化という方法もあるでしょうが。プラザのあり方検討会では、プラザに限定されていましたが、今度は新宿区という広い範囲でありますから、連絡会に参加している人は勿論ですが、他の方にも参加していただいた方が良いのでは

ないのでしょうか。どのくらいのメンバーで進めるかも考えなくてはいけないと思います。プラザの在り方検討会で肩代わりするとなると考え方を改めないといけないと思います。いろんな方のご意見を聞いて考えていくことになると思います。子どもの分科会にも、防災の分科会にもいろいろな方が参加されているのですよね。そうしますと各分科会に参加している人が、新たな分科会に参加することになるのかなと思います。プラザの在り方検討会だけでは荷が重すぎるのではないのでしょうか。

D：新たな分科会が一つ必要ということですね。

区：議論の中でできるだけ多くの方の声を吸い上げるということがありましたので、分科会の設置を少し見送り、次回の全体会までにもう少し詳細な事務局案を準備して、それを皆さんに提示して議論をしていただくというのも一つの方法かと思われます。

D：次回の全体会で議論をするということですか。新たな提案が出ましたがいかがでしょうか。

B：今のご意見も良いのですが、せっかく皆さんにお集りいただいていますので、次回というよりこの席で決めていただいた方が良いと思います。分科会のメンバーも必ずしも連絡会のメンバーだけでなく、直接外国の人からも意見を聞くこととし、(構成メンバーの対象の) 範囲を決めないで分科会を作っていくのはどうですか。そうすれば、次の会議までに方向性が見えてくるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

D：連絡会のメンバーに限らず、もう少し広く意見を聞いて素案を作って、それを次回の全体会で議論するのはどうかという、新たな提案ですがいかがでしょうか。

区：今まで連絡会でいろいろと議論してきましたので、やはり皆様に基本的な部分を決めていただきたいという思いもあります。分科会がその活動の中で、連絡会に属していない外国人や日本人から意見を聞くという活動はあってもいいとは思いますが、基本的なことを決める場としては、連絡会が主となるべきだと思います。私達としては、できれば分科会を立ち上げていただきたいと思います。分科会で何回か議論して全体会に諮っていく形になると思います。もし、分科会で基礎固めをするということになると、次回の全体会でいきなり提案というのはできないと思いますので、もう少し後の全体会で提案することになると思います。

D：連絡会からの提案として推進会議を設置することになったのではなく、区長のマニフェストに掲げられ設置することになったので、分科会への参加者が少ないようですから、ここを舞台に素案を作るのは無理があるように感じられるのですが、もう一度(参加

希望者を)聞いてみますか。それでは、この素案作りに参加をされたい方はいらっしゃいますか。

L: 何人かは今日初めて参加しているので、未だ様子が分からないのです。既存の分科会の様子も分からない状況で、新しい分科会について聞かれても判断ができないので、戸惑っている人が多いと思います。今日、参加を表明する方には参加していただき、それにプラスとして、少し時間を頂いて新宿区の外国人に口コミでいいので声をかけて参加者を募ってみてはどうでしょうか。時間をかければもう少し参加者が増えると思います。

D: もともとこの会はオープンな会なので、途中から参加することもできます。その意味では、この場だけでなく後からでも参加はできますよね。

区: 今のご意見はそのとおりだと思います。

D: それでは、期間限定でのワーキンググループのようなものなのですが、推進会議の制度設計を考える分科会を立ち上げることをこの場で決められると良いのですが、それはよろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは、期間限定の第4の分科会を設置したいと思います。未だ2名しか手が挙がっていないのですが、この後も参加希望の方は事務局に連絡してください。後、10分しか時間が残っていないのですが、残りの議題に移ります。

## ～多文化共生フェスタについて～

### 【多文化共生フェスタの実施について事務局から説明】

- ・昨年度は3月20日に開催すべく皆さんに準備をしていただいたが、東日本大震災の影響で中止となった。
- ・今年度、改めて9月に実施したい。
- ・連絡会に実行委員会を立ち上げて企画をお願いしたい。

D: ありがとうございます。この件についても、皆さんからご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。事務局としては、多文化共生フェスタの実行委員会を立ち上げていただきたいということですが、いかがでしょうか。9月実施となると今から準備を始める必要があると思うのですが、どうでしょうか。ご意見、ご質問はありませんか。

F: これは初めて実施するのですか。

D：第1回の開催が予定されていたのですが、先の大震災で中止になったので、今回実施するものが初めてになります。

F：これは、予算があるのですか。

D：今回初めて参加している方もいらっしゃいますので、基本的な事項の説明も区の方からお願いします。

区：3月20日のフェスタは、提案してからあまり期間が無かったこともあって、急いだ形での実施にはなりましたが、内容としましては、大久保公園で多国籍の屋台を設置し、簡単なステージも作って、様々な国の踊りや民族音楽を提供して、区民の方に広く、多文化共生プラザや、多文化共生のまち新宿をPRするという目的の企画でした。予算は、前回は5～60万円を考えていました。手作り感というか、あまりお金をかけないで皆さんに楽しんでいただくことを考えていました。今年度は、6～70万位になると思います。

F：開催は1日だけですか。告知はどのように行うのですか。

区：基本的に1日だけの開催を考えています。告知については、区の広報やホームページ、それにチラシを作ってこの連絡会の方を含めて様々な所に配布します。

D：事務局としては、この連絡会が主体となって実行委員会を立ち上げて多文化共生フェスタを実施したいという考えですが、よろしいでしょうか。そうすると、実行委員会のメンバーをこの中から募ることになるのでしょうか。

区：今日は時間がありませんので、改めて事務局の方から皆さんにメール等で多文化共生フェスタの趣旨等をお知らせし、募りたいと思います。

## ～新宿生活スタートブックの改訂について～

【資料3に沿って事務局が説明】

D：ありがとうございました。今の説明にご意見、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

L：東京都もそうなのですが、お金がかかるのに利用頻度が低いとのことですが、その改善策が様々な所に配布するというのは、皆さんが議論して、そのようにしたか分からない



のですが、インターネットに載せるというのはたぶん検討していると思うのですが、インターネットであれば、少数言語も載せられますし、そもそも外国人登録窓口に置いているということは、一応全員、そこに行っているわけですから、知っているわけですよね。知っていて、実際手に取って、持って帰っているのか、その辺は議論しているのでしょうか。インターネットであれば、少数言語も載せられます。多くの部数を作成することと比べて、コストはどちらが低いかを検討したのですか。

区：インターネットについては、外国語ホームページを立ち上げています。そこから検索できます。紙だけでなくインターネットでも読むことができます。

L：インターネット上では、少数言語については、考えられているのですか。

区：今までは、議論していません。

G：議論をしていないのではなくて、あくまでも4言語対応で、それ以上は特に考えていないということではなかったでしょうか。

H：タイ語とミャンマー語でも載せるということで、私達も一生懸命、意見を出しました。しかし、印刷する直前に、タイ語とミャンマー語については、一緒に印刷をすることができないということになった。印刷できなくても、インターネットに載せてダウンロードできるようにしてはどうかという話もありました。

D：少数言語について冊子にするのは難しいなら、インターネットに載せたらどうかという意見が出ましたので、事務局で改めて検討していただきたいと思います。他によろしいでしょうか。よろしければ、最初に話題になった今年度の分科会について確認したいと思います。

## ～今年度の分科会活動について～

D：資料1をご覧ください。2010年度の分科会として、「プラザの在り方」、「子ども学習支援」、「災害時外国人支援」の3つが実施されています。事務局の考えとしては、この3つを継続して、新たに推進会議の分科会を設置したいということですが、よろしいでしょうか。特に今回、初めて参加する方々にはいずれかの分科会に加わっていただいた方がよろしいのでしょうか。また、新しいテーマの分科会が必要という考えがありますでしょうか。ご意見ありませんか。

K：分科会は、年度途中で追加することも可能ですか。ここで決めないと今年度はできないのでしょうか。

D：年度途中で立ち上げは可能ですか。

区：それは可能です。

D：そうすると、とりあえずこの4つの分科会でスタートすることとしてよろしいでしょうか。新たな課題が出てきましたら新たな分科会を立ち上げることとします。すみません。だいぶ時間がオーバーしてしまいました。それでは、会長のご挨拶をお願いします。

B：十分ではありませんが、長い時間にわたって皆さんとの意見の交換ができましたこと厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。最後に事務局から連絡事項をお願いします。

区：ありがとうございました。次回の連絡会は、7月に開催したいと思います。また、皆様にご通知させていただきますのでよろしくをお願いします。全体会は、ここで閉めさせていただきますが、よろしければ、昨年立ち上げた3つの分科会で集まって今年度の日程等を話し合っていたく場をこの後持ちたいと思いますので、宜しくをお願いします。

以上